

令和2年度 推薦入試

歴史学科 小論文問題① 出題意図・解答例

1

【出題意図】

10世紀から11世紀に遠隔地貿易が復活したとされる要因について、貿易を活性化させるものとして人口の増加（その背景として気候温暖化や社会秩序の安定化、農業技術革新による食糧増産などをあげられればさらに可）、余剰生産物を交換する定期市の開催、人の移動の活発化、商人や手工業者の登場などを考えられる要因として推論できるかどうか、また、歴史的背景としてグレゴリウス改革などによる宗教心の高揚とそれによる巡礼活動や十字軍、東方情報・物産の流入、ヴェネツィア・ジェノヴァなど北イタリアの交易の活発化などを要因として記述できるかどうかを評価することとした。

(1)

【解答例】この論説は、中世都市の起源と初期の歴史を説明するためにアンリ・ピレンヌによって提示された理論に関わるものである。この理論は、以下のようにまとめられるであろう。9世紀から10世紀の大半をつうじて、ヨーロッパの遠隔地貿易は衰退しきっていたが、10世紀から11世紀に遠隔地貿易が復活してきたとき、経済状況の変化によって生み出されてきた商人や職人たちが都市の周囲に定住した。そのような人々の流入が真の都市生活にとって発展を可能にした。私たちは、ピレンヌの見方を二つの方法においてきわめて有効に批判することができる。すなわち理論的な根拠についてと事実を参照することによってである。まず第一に私たちは、彼が10世紀から11世紀の遠隔地貿易復活の役割についての彼の見解において正しかったかどうか、そして全体として封建社会と貿易との関係についての彼の見解において正しかったかどうかを問うことができよう。

2

【出題意図】

スペイン領アメリカからの大量の銀流入の結果、ヨーロッパでは銀の価値が下がり、物価が高騰した。また金利が低下し商工業が盛んになる一方、フッガー家などに代表される旧来の大商人や、固定地代で生活する地主・領主などは没落した。これらの現象は価格革命と呼ばれる。アジアにおいても、銀本位の銀経済が進展し、中国では明代後期には租税と徭役を銀に換算し一本化して納めさせる税法である一条鞭法が成立した。銀の旧世界への大量流入の結果として、以上のような現象の一部を推論し論述してもらうことをねらいとする。

(1)

【解答例】

最初は、この宝の多くは、地上で、主に金の彫像や装飾品、装身具の形で発見された。これらの金は、カリブ諸島やアステカ、インカ帝国の原住民から公然たる略奪や物々交換を通して、スペイン人によって即刻に獲得され、スペインに返送された。この戦利品の到着は、最も能力の高い観察者さえも、新世界では金が最も重要な資産であると確信させた。しかし、目に見える宝は、まだ地下にあった宝と比べれば些細なものだった。豊かな銀鉱床の発見、特に現在のボリビアのポトシとメキシコのサカテカスとグアナファトの銀鉱の発見は、銀こそがスペイン領インディアス（アメリカ）の真の富だということを、すみやかに証明したのだ。